

ニチュア判の『くまで』を掲げ、「辻太郎の招福くまで。あなたの願いをかなえます。商売繁盛、恋愛成就、ご家族の健康を祈って辻太郎が心を込めて作りました。(中略)ぜひお買い上げください。1つ600円。おめで鯛がついたのは700円で販売しております。」と見事な口上とドヤ顔が素敵でした。施設長によると、このくまでは月に100個売れ、ご本人には3万円ほどの収入があるそうです。ちなみに舞台上に置かれたものは5万円だそうです。アート作品に口上が加味され、昔懐かしい辻々で繰り広げられる物売りの情緒を醸し出す、全てひっくり返す作品なのだと思います。



ここで会場からの質問。「アートができる人はいいけど、うちの子は重度なんですけど…」はい、はい、そうですねと会場の多くの人が思ったでしょう。

この質問への答えは目から鱗でした。事例として紹介されたのが、日がな一日ボールペンで紙にグルグルと書き続けている方がいるそうです。やがて紙は破れてきてレース状になりました。これに目を付けた支援者が、作品として展示したところ、アメリカの方とオーストラリアの方がお買い上げされたそうです。

お二人とも、障がいがある人の作品とは知らずアートとして気に入ってくださったとのこと。この他にも、ひたすら紙を切り刻んでいる人、色鉛筆を3等分にカットし続けている人なども紹介されましたが、すべて受け入れて表現としてとらえ、アートになる。現実的にはご家族をはじめ周りの人たちから、そんなことが何になるの？と言われることも多いそうですが、制度や社会、私たちの価値観など世間には受け入れられにくい、枠組みに当てはまらない人たちに寄り添うということが、登壇されたシンポジスト全員の共通した思いであると強く感じました。

NPO法人ハイテンション代表 元うたのお兄さんのかしわ哲さんはこう言いました。

「仲間の置かれている状況が耳に入る中で、ロックンロールだけやっているのはカッコ悪い。」「障がい者の力を限定して、そこそこいいという考えはない。プロだからお茶を濁すようなことには付き合えない。」「これま

での活動を確かなものにするために団体を作った。仲間を守るために！！」

人生は誰と出会うか、どのような環境で過ごせるかで大きく変わるということを改めて感じた時間でした。招福くまでの伊藤太郎さんも、かしわさん率いるロックバンド《サルサガムテープ》のメンバーも本当に生き活きと活動されています。彼らを観ていると大衆に理解されない前衛芸術家や売れない役者の姿が浮かんできました。障がいがある人は一般的な価値観に沿った生き方をすべきと誰が言えるのでしょうか。人として自分が選んだ人生を歩むという基本的な人権を侵害してはいないだろうか。そんなことを考えながら、クオリティーの高い演奏とそれぞれが好き勝手に打ち鳴らすパーカッションが融合した《サルサガムテープ》のロックに身をゆだね、笑顔いっぱいの中に大会は終了しました。

きずな会の皆さんと全国大会の本人大会に参加しました

メープル 管理者 石橋 孝治
法人事務局 道畑 有美香

7月2日(土)から3日(日)にかけて、第3回全国手をつなぐ育成会連合会 全国大会神奈川大会に「きずな会」の皆さんと本人大会に参加しました。2日ともお天気がよく、暑いぐらいでした。

1日目は、弁天町駅に朝6時に集合ということで、早い時間でしたが参加された12名の皆さんは、待ちに待っていたようで朝から全開の様子でした。

このような雰囲気のまま新大阪駅に移動し、新幹線の中でも、泊まるホテルがどんなところか、部屋割りがどうなっているかの話しで持ちきりでした。しかし、名古屋辺りを過ぎると、だんだんと口数も減っていきました。早い時間の集合だったためか、しばしの仮眠タイムになってしまいました。

新横浜駅については、乗り換えの勝手が大阪とは違うため、引率している職員も含め、みんなであたふた。迷いついでに市内観光をしながら、何とか無事に会場の神奈川県民ホールに開始時間までに到着することができました。

開始時刻も迫っているなか、しっかりとお昼ごはんを近くのお店で食べ、いよいよ全国大会の会場へ……。

きずな会の副会長と道畑は、本人大会の分科会B「はたらくトーク」に参加しました。

分科会B「はたらくトーク」は、午前中に韓国の育成会から来られた本人の方1名を含めた4名のパネリストから、「仕事と差別について」をテーマに今までの実体験の発表があり、午後のグループ討論では、10名くらい